

秋田県理学療法士会ニュース



第180号
2018年1月15日発行

発行：公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長：菅原 慶勇 編集：加賀屋勇気 印刷：株式会社秋田情報プリント
事務局：〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ <http://www.ptakita.org>



新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまにはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は委託事業が多く、関係部員の負担を心配する向きもございましたが、会員の皆さまの温かいご理解とご協力のもと無事滞りなく事業が遂行できましたこと心よりお礼申し上げます。改めて当会の力の底深さを感じた次第です。

おかげさまで、昨年当会の会員数は600名を越えました。会員数の増加と並行して、県内における理学療法士への期待と当会が負う責務も同様に増すことを考えれば、身の引き締まる思いがするとともに、職能団体としての人材育成とリスクマネジメントに傾注する必要性を感じています。地域包括ケアシステム構築により当会とリハビリテーション専門職協議会には、講師の派遣要請が頻回にくるようになりました。講師派遣の要件として介護予防事業であれば、参加者の身体機能の向上が課題になるのでリスク管理やエビデンスに基づく理学療法を提供できることが最低条件かと思われそうですが、加えて、多職種間のマネジメントということを考えればコミュニケーション能力、倫理観そして情報伝達能力なども重要な要素になります。当会では、指定管理者研修等を通して資質の向上

に努め、このような求めに応じることができる医療人材を育成していきたいと考えています。会員の皆さまには是非ともご参加いただき、県内理学療法に関する診療報酬改定をはじめとした情報共有、資質向上やスキルアップにお役立てください。この点においては、専門領域研究班や秋田県リハビリテーション研究会への参加もお勧めいたします。皆さまもご存知の通り来年度開始予定の新専門医制度では、リハビリテーション科が内科、外科などと同じ基本診療領域の一つとして認められます。また、日本理学療法士協会による新生涯学習システムが、平成33年4月の開始を目指して準備が進められています。新生涯学習システムでは外部評価が入り、理学療法士の臨床能力の底上げと努力した会員が正当に評価される制度に変更されます。このような背景から、県内においてもリハビリテーション科専門医を志す医師が増え、今まで以上に、基本に準じた評価とリスク管理に基づいた理学療法が標準化されると思われれます。様々な分野で目標を達成しようとする意欲と意識のある班長が主導している5つの専門領域研究班、そして、様々な職種が一堂に会す貴重な場である秋田県リハビリテーション研究会を相互理解や情報交換の場として活用いただき、秋田県のリハビリテーション医療の発展に繋げてくだされば幸いです。最近、戦後の日本を牽引してきた大手企業のリスクマネジメントと危機管理が問われています。当会においても、不測の事態に備えたリスクマネジメントと事由発生後の危機管理について熟慮する必要があります。組織が一丸となって迅速なリスクマネジメントができ、被害を最小限に抑止することができる体制の構築を模索していきたいと考えています。

さて、本年4月の医療介護報酬同時改定にむけて、一層の自立支援と重度化予防の推進を狙った加算や基本報酬の見直し、そして医療と介護のシームレスな方策が議論されているようです。介護報酬の引き上げなど耳あたりの良い報道もありますが、急速な高齢者の増加と生産年齢人口の減少を考えた場合、今後は十分な診療報酬の増額は見込めそうにありません。そうであれば理学療法士の権利拡大を図るような目先を変えるアプローチが必要になるかと思えます。身分保障や医療政策を提言する場合、個人の取組に加え、同じ志を持つ全国ならびに県理学療法連盟と協力していくことが重要です。政治連盟は受容しないといわれる方もいらっしゃいますが、組織内候補という超党派で理学療法士の権利拡大に尽力していることをご配慮いただければありがたく思います。いずれにしましても、会員の横の繋がりを密にして情報の共有に取り組んで参ります。

最後に、今年は3月の会費納入期限変更、4月の医療介護報酬同時改定、平成33年4月開始予定の新生涯学習システムに向けた対応、6月の県学術大会と新人歓迎会そして定時総会の同時開催など節目になる事柄が盛りだくさんです。今年も多忙を極めそうではございますが、会員の皆さまには昨年以上のご協力をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



1

2018
Jan. Feb.

2





第35回 東北理学療法学会

～社会の変革期に理学療法士の質を問う～

in 岩手県盛岡市

2017年11月18～19日に岩手県盛岡市、盛岡市民文化ホールにおいて第35回東北理学療法学会が開催されました。

本大会は『社会の変革期に理学療法士の質を問う』がメインテーマとされ、様々な経歴、分野の先生を招き、公演を聞くことが出来ました。

- 学会経験・発表レポート -

本学会で私は「回復期脳卒中患者の肥満度と機能転帰との関係」という演題を発表しました。肥満は種々の病気の誘発因子の一つと考えられ、減量するように推奨されます。しかし近年、過体重や肥満傾向にある患者の生存率や日常生活動作能力は痩せ型の患者よりも高いとされる肥満パラドックスの報告が聞かれるようになってきました。このことが脳卒中患者においても当てはまると言われていますが、見解は一定していません。そこで当センターの現状として、回復期脳卒中患者を肥満度に応じて群分けし、肥満度と機能転帰に関連があるのかを後方視的に検討しました。結果として、回復期在棟日数に関しては普通体重群に比較し過体重群が短縮する傾向にあることが示唆されましたが、ADL能力を表す運動FIMやFIM利得では明らかな差は認められませんでした。以上より、肥満度に関係なくADL能力は改善でき、今後肥満パラドックスをより検証していくには入院期間中の体重変化の経過や栄養状態、生理学的所見等より詳細な検討が必要になると結論付けました。

今回研究をするにあたり、様々な文献や抄録等を抄読しましたが、新たな見解に気づくためには、多角的に視野を広げ、知識を深めていくことが大事だと改めて感じました。また、ポスター発表だったのですが、デザインや表現一つで伝わり方も異なり、細かいところまで職場の先輩方がアドバイスをしてくださり、準備に励むことが出来ました。実際の発表に関してはフリーディスカッションということもあり、見に来てくださった先生方と様々な意見交換ができ、自分一人では気づくことが出来なかった点も指摘を頂くことができました。私は、本学会が初めての学会発表であったため、発表が始まる前までは大変緊張し、食べ物も喉を通らない状態で「鋭い質問が来たらどうしよう…」と身構えていたところもありましたが、同職の先生方ということもあり、とても暖かい雰囲気の中で意見交換ができ、安心しました。また、テーマや着目点等でお褒めの言葉を頂くこともあり、とても嬉しかったです。今まで研究発表は聞き手であったため、実際に自分で研究を行い、話し手になり、気づくことも多くありました。研究というと、「難しそう、自分にはできないだろう…」といったネガティブな感情が大きかったのですが、今回の経験を経て、様々な考えに触れ、知識や見解を増やしたいと興味が沸くように変わったと思います。全日程を終え改めて振り返ってみて、このような貴重な機会を頂けたことをとても嬉しく感じました。



最後になりましたが、今回の演題発表に先立ちましてご指導して頂きました先生方、職場の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

(秋田県立脳血管研究センター 佐々木 杏奈)





The International Meeting Report

Today's science meets tomorrow's care

秋田県立脳血管研究センター 加賀屋勇氣

昨年、11月にオーストラリアのシドニーで開催された、Congress of Asian Pacific Society of Respirioly (APSR) に参加して参りました。日本とは真逆で真夏のオーストラリアは気温が高いものの湿度が低く、とても過ごしやすい気候でした。半袖で過ごせる暖かな季節ですが、クリスマスにむけて、街中にツリーやサンタクロースが飾られ、クリスマスソングが流れているという、日本人からすると不思議な冬を体験しました。



会場となったInternational Convention Centre

さて、皆様は国際学会にどんなイメージをお持ちでしょうか？とても高いハードル。限られた一部の人のためのもの。そんなイメージをお持ちではないでしょうか？私自身がそうでした。自分にはまだ早いと。しかして、いざ機会を頂いて、経験してみると、そのハードルは言語だけなんだと感しました。

私はポスターセッションでしたが、日本と同じように、色々な国の先生方が私の発表に耳を傾けてくださり、質問もいただきました。むしろ、こうした場に集まる先生方だけあって、日本の学会以上に聞き手も積極的に参加しているように思いました。そして、英語を母国語としないアジアの先生方の英語力の高さに面喰いました。中国や韓国やインドの先生方の国際力は、間違いなく日本人より高いものでした。

国際学会だからといって、国内の学会より内容が素晴らしいとは必ずしも限らないと思うのです。ただ、国内で我々がやっていることを英語で議論できるか。もっと英語で議論できれば、私たちの日常臨床により多くのものを持ち帰ることができるんだと思います。自分の研究をしっかりと英語で伝えることができれば、世界のどこかにいる患者さんの役に立つかもしれません。国際学会の意義はそういうものだと感じました。

国際学会を特別なものと思っはいけない！

それが今回一番強く思ったことです。英語でのディスカッションは日本語のようにうまくはできませんが、国際学会の恥はかき捨て！と思って、チャレンジしていくことが大事なのかもしれません。なかなか得られる機会ではありませんが、また参加したいと強く思いました（ずっとサボっていた英語の勉強が、学会以来、趣味になりました。スマホアプリですが笑）

聞き手はとても熱心に聞き取ろうと耳を傾けてくださいました。スマートに発表したいところですが、身振り手振りでなんとか伝えようと悪戦苦闘です

余談ですが…やはり海外にトラブルはつきものです。ホテルの部屋につくなり、カードを刺しこんでも電気がつかず、レセプションに電話をかけるという難題に直面… “The light of my room doesn't work well.” と伝えると、あれやこれやと英語で話し出したので（当たり前）、 “Wait, wait. Could you come to my room and check it.” とお願いしました。電話での英会話なんていう難題は避け、来てもらうのが一番ですね。そしてホテルマンが私の部屋に来て、カードを強く差し込むと… あっさりと turn on the lights… …皆様、オーストラリアのホテルの電気は、日本のホテルよりカードを強く差し込まないと点灯しないようです… いとも簡単に電気がついた瞬間に顔を見合わせた私とホテルマンのお互いに気まずい顔といったら… それもまた終わってしまえばいい思い出です（笑）

最後になりますが、タイトルは学会場でとても印象に残った言葉です。研究と臨床はひとつなぎ、

Today's science meets tomorrow's care.

今日の研究を明日の臨床に活かすために！今年もコツコツ頑張ります。



専門領域研究班 活動報告



第1回 神経系理学療法研究会 開催報告

去る12月3日(日)、雪が舞い散る寒空の下、第1回神経系理学療法研究会を開催し21名の参加を得ました。

第1部「秋田市内における回復期病棟の実態調査報告」では、秋田市内(3病院)及び全国の回復期病棟のデータを比較し、客観的にみた秋田の脳卒中理学療法について知見を報告しました。第2部「脳卒中患者の歩行を考える」では、2016年に米国心臓協会/米国脳卒中協会より発表された脳卒中ガイドラインの翻訳結果を基とし、実際の治療動画を通じ、得られたエビデンスデータを臨床に応用するポイントについて説明を行いました。

会を通じ、参加者間で治療方法や臨床での疑問についての積極的な意見交換も行われました。当会の活動に興味をお持ちの方は、ぜひ「akita.neuro.pt@gmail.com」までお気軽にご連絡ください。秋田県における神経系理学療法のさらなる発展に向け、ぜひ皆様のご意見・ご協力をお待ちしています。



神経系理学療法研究会コアメンバーの面々

循環器理学療法研究会よりお知らせ

当会では、毎月(原則第2水曜)に、Research Conferenceを開催しております。それぞれが自分の進めている研究や症例検討を持ち合い、真剣に議論しております。見学だけの参加でも構いません。研究をしたいけど、どうしたらいいかわからないという方の参加もお待ちしております。興味のある方はご一報ください。

循環器理学療法研究会→→ akita.circ.pt@gmail.com (こちらまでご連絡ください)

表彰報告

様々な分野で表彰された士会員の方々をご報告します。
受賞された皆様 おめでとうございます。

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会(2017.11.17-18)

- 学会奨励賞 大倉和貴先生(秋田市立総合病院)
優秀演題賞 柏木智一先生(大館市立総合病院)
照井佳乃先生(秋田大学)



大倉和貴先生



柏木智一先生

〈表彰者選考委員会より〉

平成29年度環境・保健事業功労知事表彰

進藤伸一先生、田村進先生、佐藤峰善先生

公益社団法人日本理学療法士会東北ブロック協議会功労賞

願法廣典先生、高橋仁美先生



照井佳乃先生

広報部では、素晴らしい功績を上げられた士会員の方を、このような形で皆様に報告させていただきたいと考えております。ぜひ、受賞の際には、広報部へのご報告をお願いします。(連絡先: akita.ptnews@gmail.com)

研究に恋して



今月の Scientist PT

齋藤 功 (羽後町立羽後病院)

**リハビリやってやれないことはない。やらずにできるわけがない。
今やらずしていつできる。わしがやらねば誰がやる。**

理学療法の研究についてあまり深く考えたことはなく、難しいことはわからないが、基礎研究と臨床研究があると思う。養成校を卒業して以来、数十年臨床の場で働いている。臨床現場はわからないことだらけで、難しく、なかなか困っている方々に対して自分の持つ知識だけでは解決できないといつも感じている。そんな時、いつも思い出し行動を後押ししてくれ言葉がある。私が尊敬してやまない TH 先生から、教えていただいたものである。彫刻家の言葉で「やってやれないことはない。やらずにできるわけがない。今やらずしていつできる。わしがやらねば誰がやる。」この言葉がこれまでの臨床研究を支えてくれています。

前職で脳血管障害後遺症者の運動耐容能の研究を行っていましたが、転職してからは対応する仕事が多岐にわたっていたため、整形外科疾患の運動機能に関すること、小児理学療法に関わり、一般病院における障害児者を取り巻く状況に関すること、スポーツトレーナーとしてアスリートの運動機能に関すること、などが中心的な研究内容となりました。私が勤務する羽後病院は高齢者の脊椎疾患や変形性関節症で、困っている方が大変多い地域です。しかし、その対応を十分できていないことに大きな悩みを抱えていました。そのような時に秋田大学の若狭先生より大学院入学を勧められ、老体にムチ打って、往復 190km の距離を通学することになりました。大学院では変形性膝関節症（膝 OA）を足圧分布や足圧中心軌跡による歩行分析を博士課程前期で研究し、膝 OA では膝屈曲制限の程度により足圧に影響があり、屈曲制限が大きい症例では足圧の内側で、より大きく偏倚し、足圧中心軌跡は前後左右で短縮することがわかりました。この結果で修士を修めることができ、リハビリテーションに携わる医療者が文献検索をすれば、幾度となく目にする米雑誌へ掲載されました (Foot pressure pattern and its correlation with knee range of motion limitations for individuals with medial knee osteoarthritis. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation, 94, 12 (2013))。引き続き、博士課程後期では、膝 OA に合併する足部痛に及ぼす足部変形、特に後足部変形に着目し、人工膝関節全置換術後の足部痛や後足部変形の変化とそれらに伴う足圧分布と足圧中心軌跡への影響を研究しました。膝 OA には高率で足部痛を合併しており、その足部痛の出現には膝関節変形だけではなく、後足部変形も少なからず関係

していました。膝 OA による変形に合併する後足部変形は複雑な関係を示し、不可逆性と可逆性の足部変形があることが分かった。また、その足部変形の変化に応じて、足圧分布や足圧中心軌跡が運動し、歩行に対し大きな影響を示すことがわかりました。この結果で博士を修めることができ、歩行に関する第一線の文献である米雑誌へ掲載されました (Foot pressure pattern, hindfoot deformities, and the associations with foot pain in individuals advanced medial knee osteoarthritis. Gait and Posture, 59 (2018))。

現在、検討している研究課題は行政、医療、保健、福祉が一体となり住民の生活を維持する「地域包括ケアシステム」で介護予防、あるいは地域支援に効果が実感でき、かつ実施する側の安全性や効率化、簡素化に対する配慮ができる方策を検討することです。羽後町の高齢化率は秋田県全体とほぼ同程度となっている。今後の羽後町の対応やそれに付随する結果が他自治体に対して先進的な発信できるように努力を重ねていきたいと思う。最後に、「Do full strength for the things which can be accomplished today. When scolding, there won't be progress of a step tomorrow. Isaac Newton」。



研究の詳細はぜひ、論文が掲載されたこちらの雑誌をご覧ください！

-PROFILE-



齋藤 功 先生
1986年仙台仙台病院付属リハビリテーション学院を卒業。
秋田県立脳血管研究センターを経て、現在羽後町立羽後病院に勤務。保健学博士。
臨床に加え、地域や小児、さらにスポーツ領域まで幅広い分野で活躍。

ぼくらの職場 紹介します!!

-Introduction of our team-

いつも転院申し送りしているけど、知っているようで知らないあの病院、あのリハ科… どんな理学療法士がどんなことしてるの?? そんな疑問に答えるべく、自分たちの病院・チームを紹介していくコーナーです!



第15回は「秋田厚生医療センター」です!

それでは秋田厚生医療センターのみなさん! ご紹介をお願いします!

—はい! 三浦あき が当院について紹介させていただきます!

〈私たちが働く病院は…〉

昭和7年に開設され、平成12年に秋田市飯島へ新築移転され現在に至ります。平成26年にはそれまでの「秋田組合総合病院」から「秋田厚生医療センター」へと名称が変更されました。「患者中心の医療の実践」と「質の高い医療の提供」を基本理念に掲げており、地域の皆様に信頼され愛される病院を目指して850人超の職員が日々力を合わせて業務にあたっています!

〈リハビリ対象疾患は…〉

整形外科、脳神経外科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病代謝科等様々な診療科からリハビリを受け付けています。整形外科が一番多く、5割近くを占めています。

〈理学療法士の人数は…〉

現在14人の理学療法士が働いています。リハ科全体では26名と、厚生連では大曲に次いで2番目のスタッフ数となっています。

〈私たちの病院のここが“ウリ”です!〉

◎秋田県心臓リハビリテーションのパイオニア

平成13年に心リハの施設基準を県内で先駆けて取得しました。

◎県内有数の整形外科手術実績

特に脊椎疾患の手術件数は県内トップです。

◎平成29年度日総研接遇大賞受賞

今後も接遇に力を入れ患者満足の上を目指していきます!



(病院紹介者: 三浦あき)

部長だより

委員会

●学会準備委員会

第23回秋田県理学療法士学会 演題募集開始のお知らせ

昨年は、格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、学会準備委員会では、会員の皆様にご満足いただけるよう、平成30年6月23日（土）の学会開催に向けて、準備を進めさせていただいております。

つきましては、平成30年1月9日（火）から2月23日（金）までの期間で、演題募集をいたします。多くの会員の皆様からの演題登録を、学会長をはじめ学会準備委員会一同、心よりお待ちしております。何かとご多用のことと存じますが、秋田県理学療法士学会をより発展させるため、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

・第23回秋田県理学療法士学会 予定

【会 期】平成30年6月23日（土）

【テーマ（仮）】「集中治療領域における早期リハビリテーション」

－ 長期予後を見据えて理学療法士にできること －

【学 会 長】 初 山 日出樹（秋田リハビリテーション学院）

【準備委員長】 富 田 浩 輝（秋田リハビリテーション学院）

【演題募集期間】平成30年1月9日（火）～ 2月23日（金）

※学会終了後には、総会及び、新人歓迎会が予定されております。

秋田県理学療法士協会の発展のため、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

研 修 部

●生涯学習班

平成29年度新人教育プログラムについて

期日：平成30年1月20日（土）

会場：秋田リハビリテーション学院 講堂

内容：12：30～ 受付

13：00～14：00 <必須研修 A-4>「人間関係および接遇（労働衛生含む）」
 初山 日出樹氏（秋田リハビリテーション学院）

14：00～15：00 <理学療法の基礎 B-4>「症例報告・発表の仕方」
 佐藤 大道氏（秋田厚生医療センター）

15：00～16：00 <理学療法の専門性 D-3>「理学療法の研究方法論（EBPT含む）」
 高橋 裕介氏（秋田大学医学部附属病院）

受講料：1 講義300円

備考：①事前の申し込みを1/12まで下記E-mailアドレスにお願いします。

②公益社団法人日本理学療法士協会会員証をお持ちの方は、受付にて使用しますので、必ず持参して下さい。

③新人教育プログラム修了者も受講できますが、専門・認定理学療法士を受験または更新するためのポイントには認定されません。

お問合せ先：伊藤 雄平

秋田厚生医療センター リハビリテーション科

〒011-0948 秋田市飯島西袋1丁目1番1号

TEL 018-880-3000（内線2159）

E-mail：akriha@akikumihsp.com

会長のうごき

11月

11月1日(水) 介護予防教室講師（秋田市）

11月1日(水) 秋田市在宅医療介護連携推進協議会参加（秋田市）

11月3日(金) 第2回地域包括ケア講演会講師（秋田市）

11月4日(土) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携推進フォーラム講師（秋田市）

11月9日(木) 介護予防教室講師（秋田市）

11月9日(木) コア学院記念式典参加（秋田市）

11月11日(土) 中央ブロック研修会参加（秋田市）

11月14日(火) 秋田県介護人材確保対策事業講師（秋田市）

11月17日(金)～19日(日) 第35回東北理学療法学会大会ならびに東北ブロック協議会理事会参加（盛岡）

11月30日(木) 秋田県体力診断事業アスリート診断参加（秋田市）

12月

12月6日(水) 介護予防教室講師（秋田市）

12月6日(水) 第5回秋田県士会理事会参加（秋田市）

12月9日(土) 第1回未来がん医療プロフェッショナル養成プラン運営諮問委員会参加（秋田市）

12月9日(土) 未来がん医療プロフェッショナル養成プランFDワークショップ講演会参加（秋田市）

12月10日(日) 第3回トレーナーステップアップ研修会（秋田市）

12月11日(月) 社会福祉協議会介護予防事業にかかわる検討会議参加（秋田市）

12月15日(金) 日本理学療法士協会課題解決型高度医療人材育成検討委員会参加（東京）

12月17日(日) 秋田県リハビリテーション研究会イヤートップックスセミナー参加（秋田市）

12月21日(木) 秋田県体育協会懇談会（秋田市）

12月26日(火) 秋田県医療審議会第3回医療計画部会参加（秋田市）

マイブーム

秋田大学大学院医学系研究科
若狭 正彦 先生

今年、五月の連休明けに、若狭家にとうとう犬がきました。

これまで何度も、家族会議の議題に上がっていたのですが、その都度、却下。しかし今回は、議題に上げたメンバーのアプローチの仕方が異なっていました。それはLineを駆使し動画や写真を見せる手法。「ねえ～可愛いでしょ……。今週中に答えを出さないと殺処分されるんだって……。可哀想だよね……。黒か茶色かどっちか選んでだっ」



写真1

なんと選ぶことを前提で議題に上げてきました。Lineなんて簡単に動画を挙げられるものがなければ……。妹（義理の）よ……。何てことするんだ……。私はそう思いました。その送られてきたLine動画と写真を見て、他のメンバーは大はしゃぎ、各々が色々な事を想像し、そして「面倒見るから……」「ちゃんと散歩連れにいくから……」……。と、これまで何度も聞いたお決ま

りの文句。

私は、しばらく無視しておりましたが、とうとうそのLine動画を見ることに……。そして私は、その可愛らしい動きをする子犬の動画に心を揺さぶられてしまいました。それと同時に、ほぼ鍵っ子状態となっているメンバーの一人が、誰も居ない家に「ただいま～」と言って帰ってくるより、何か生き物の気配がある空間に帰ってきた方が、そして他のメンバーが帰ってくるまでの間、自分以外の動物の動きが感じられる空間だと、寂しくなくていいに違いないと思うようになり、ついに犬をメンバーの一員として受け入れることにしました。

「お世話するから～」と言っていたメンバーは、受け入れてまもなく、生後1か月の子犬にほえられ容赦ない咬みつきの洗礼を浴びたことにより、「距離」を置くこととなり、次に大きいメンバーは部活中心の時間で動くため、ほぼ当てにならず。案の定、結局は私と他の大きいメンバーが毎日やることに……。



(写真2：5月頃。生後1か月)



そして生後3か月たって、予防接種が全て終わり、ついに外の世界にお散歩デビュー。



(写真3：8月頃)

「犬との散歩」が私のマイブームとなりました。毎朝、吠えられて起こされているわけではありませんが、5時頃目覚めて、犬と散歩。左手にはう〇こ袋、右手でしっかりとリードを持ち、犬に引っ張られながらの散歩です（犬を先行させる散歩スタイルはしつづ的に駄目だというのは承知済み。でも、いつも狭い家の中にいるから、外くらは自由になんか思っている）。

犬と散歩を始めたことで、徹夜でもしなければ拝むことができない、朝日にうっすらと赤く染められた空を、すっきりとした頭で拝むことができ、また澄んだ空気の中を歩くことで気持ちも身体もスッキリ。一日の始まりを気持ちよくスタートできるようになりました。そしてまた散歩経路で色々なものを発見。近所の雑木林の中にある天然のもみじがいい感じの枝張りといい色の葉をつけており、このもみじが家の庭に欲しいとか、全て葉が落ちたケヤキの枝が妙に神秘的であったりとか、

ご近所様の庭最高だな～とか、色々と物色しながらの散歩です。日の出時刻の違いも季節を通し感じ今は（11月末）薄暗い中、そしてまだ誰も歩いていない雪が降り積もった道を犬と2人（？）で、マーキングしながら散歩しております。これまでずっと、あれだけ犬を飼うのを反対していた私ですが、私が一番、犬からエナジ～を貰っている感じです。

犬と一緒にいる時に会う知人に、私がいつも言うことは「子供達がお世話とか散歩するって言ったのに、結局は私がやるはめになって大変ですよ～」ですが、会う知り合いほぼ全ての人達に言われることは、「犬が来て一番喜んでいるのは、あなたでしょ・・・」です。きっとニコニコしてしゃべっているのじゃないかな、私・・・。

次のマイブームのバトンは今年の4月から大学教員の仲間入りをした照井佳乃先生にお渡しします。

身近にいるのですが、あまり交流？もなく、神秘的な方ですので、何が出てくるのか楽しみです。どうぞよろしく願いいたします。



(写真4：あっ・・・という間に大きくなりました。11月)



ニュース編集班より

ニュース編集班班長の加賀屋です。新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。今号のニュースはいかがだったでしょうか？ニュースへのご意見・ご指導など下記連絡先までお寄せいただくと幸いです。

次回ニュースの原稿締め切りは2月19日(月)です。載せたいニュース、写真などありましたら、ニュース編集班までお寄せください。

「マイブーム」を依頼された秋田大学の照井佳乃先生も、この期日までにご自身の写真つきの原稿を送付して下さるようお願いいたします。(1,000～1,500字程度)

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立脳血管研究センター 機能訓練部 加賀屋勇氣

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

秋田リハビリテーション学院

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校

平成27年4月開校
秋田県初!
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員

〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します! 医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器●理化学器械●福祉用具レンタル●介護用品●厨房設備機械●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33

〒010-0964 秋田市八橋鯉沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)

FAX 0187-66-2139

☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤 俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2

Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546

本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4

Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313

能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番

Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体現象測定装置・FES(機能的電気刺激)
リハビリテーション機器 販売

有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚 清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1

TEL 018-837-0161

FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621

秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5

TEL/FAX 018-882-2116

TEIJIN

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)NAC(TB)1201

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

(株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22
TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126